

No. 873

道楽むすこ、と永田さん

—10年ぶりロ ッ テ 優勝—

プロ野球パシフィック・リーグのペナントレースで、ロ ッ テ ・オリオンズが10年ぶり優勝をものにしました。苦節10年、やっと胴上げされたものの永田オーナーのその間の熱意は少しも報われず、なんと道楽むすこの集りぞ、となげかせたものでした。

今ここにロ ッ テ は3度目の栄冠を獲得して、濃人監督以下ナインは永田オーナーに恩返しが出来たと大喜び、さも愉快そうに笑う永田さん。さあ、こんどは日本シリーズだ、と新たな決意に燃えていました。

わらび座の人びと

—秋 田—

日本人の生活の中から生まれ受け継がれてきた民謡。能楽や歌舞伎のように陽のあたることなく常に力のない民衆の中で、生活の喜怒哀楽を表現しつづけてきた民謡が、今日本の町や村から消えていこうとしている。都市化の波の中で地域共同体が破壊されつつあるのだ。この現実の中で日本人の魂にふれる民謡や民衆芸能を働く人びとの文化芸術として発展させていこうとする劇団がある。わらび座である。

今から20年前、朝鮮動乱がはじまった頃、労働者は可酷な生活を強いられ、暗い世相のなかで歯をくいしばっていた。そのような中で、労働者の心の糧になる歌や踊りを町角や広場で巡演する三人がいた。

彼等は全国をまわり民謡の宝庫、秋田に住みついたのである。働く人達の生活の中からしか働く者の文化や芸術は在りえないという信念のもとに。無一文の生活からはじめ今では座員も200人と増え、子達人も40人になり、ようやく少ないながらも3,000円の給料を支払えるようになった。

わらび座は、初期の信念のもとに思うぞんぶん活躍できる時期を迎えようとしている。

しかし、日本の農村が音もなく破壊されゆくなかで、民衆芸能としての民謡を働く人達のための娯楽文化として発展さすには、まだまだ出発点にいるのだ。